

新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	レビィ小体型認知症におけるアルツハイマー病理合併促進因子の同定 (Identification of factors that contribute to the development of concomitant Alzheimer's disease pathology)
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	新潟大学脳研究所病理学分野における病理組織学的検索によりレビィ小体型認知症 (dementia with Lewy bodies: DLB) と診断がなされた患者さん 11 例、アルツハイマー病と診断がなされた患者さん 6 例、もしくは脳に異常はありませんと診断された患者さん 11 例で、計 28 名です。 したがって、下記の期間に本研究の対象となる患者さんのご遺族で、死体解剖保存法に則った病理解剖時に、診断を確定するとともに病気解明のための医学研究を行うことを説明され、文章で同意いただいている方が本研究の対象です。 対象期間：2005 年 1 月 1 日から現在まで
③概要	レビィ小体型認知症 (dementia with Lewy bodies: DLB) の予後の悪化において、高頻度に合併するアルツハイマー病理 (アミロイド β 陽性老人斑とリン酸化タウ陽性神経原線維変化) の影響が強く示唆されています。アルツハイマー病理の合併や進展のメカニズムが明らかでなく、明らかにすることが治療薬開発へつながります。解剖時に同意いただき取得した試料・情報をもとに RNA やタンパク質の成分を解析することで病気の原因の解明をしていくことを目的とします。
④申請番号	C2025-0086
⑤研究の目的・意義	レビィ小体型認知症の予後を悪化させる要因である、高頻度に合併するアルツハイマー病理の進展のメカニズムを明らかにして治療薬開発につなげる。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から 2027 年 3 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	新潟大学脳研究所病理学分野のスタッフにより、病理解剖にて採取した脳組織（凍結保存脳組織並びにホルマリン固定後パラフィン包埋組織の未染色標本）および付随する患者さんの情報（年齢、性別、疾患名・罹病期間）を共同研究先に提供します。新潟大学脳研究所から共同研究先に試料を送る際には特定の個人を特定することができないようにした状態で提供し、対応表は提供しません。共同研究を行っている弘前大学大学院医学研究科 脳神経病理学講座にて標本組織中の RNA やタンパク質についてトランскriプトーム、プロテオーム解析を行います。
⑧利用または提供する情報の項目	年齢、性別、疾患名、罹病期間
⑨利用する者の範囲	新潟大学および以下の共同研究機関等で利用いたします。 新潟大学脳研究所病理学分野 柿田 明美

	<p>新潟大学脳研究所病理学分野 井上 穂 共同研究機関： 弘前大学大学院医学研究科 脳神経病理学講座 助教 三木 康生 弘前大学大学院医学研究科 脳神経生理学講座 助教 下山 修司 弘前大学大学院医学研究科 分子生体防御学講座 助教 多田羅洋太</p>
①試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学脳研究所病理学分野 教授 柿田 明美
②お問い合わせ先	<p>本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。</p> <p>所属：新潟大学脳研究所病理学分野 氏名：柿田 明美 Tel : 025-227-0633 E-mail : kakita@bri.niigata-u.ac.jp</p>